

第 35回 BC 州日本語弁論大会
2023 年 3 月 04 日(土)
優秀作品集

BC 州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員が編集したものである。

第 35回 BC 州日本語弁論大会

日時: 2023年3月04日 土曜日 午後 10時～17 時

場所: ブリティッシュコロンビア大学、アジアン・センター

実行委員会:

Dr. Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)
Ms. Ihhwa Kim (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)
Dr. Kyoko Kobayashi Hillman (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)
Ms. Masumi Abe (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)
Ms. Kaori Tanaka (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

司会者:

Michelle Ma, Leo Hirose, and Shirley Yang, UBC

審査員:

高校部門:

Ms. Satoko Hashigasako	Eric Hamber Secondary
Ms. Grace Ho	R.A. McMath Secondary
Ms. Mari Miyamoto	West Vancouver Secondary/Sentinel Secondary
Mr. Yuki Sato	Kiyukai

大学部門:

Ms. Tomoko Bailey	JALTA
Mr. Kazuma Ishikawa	Konwakai
Mr. Kazuhiko Kadono	Listel Hospital Group
Dr. Ryuko Kubota	UBC
Ms. Yasuko Matsumoto	UBC
Mr. Yasushi Yogo	Mitsui & Co. (Canada) Ltd.

出場者:

「高校部門 初級」

- | | | |
|---|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Victor Beas
文化の継承 | Vancouver Technical School
<i>Cultural Inheritance</i> |
| 2 | Steven Cheng
わたしのジャケット | Richmond Secondary
<i>My Jacket</i> |
| 3 | Min Hong Kim
日本語の勉強を始めたきっかけ | Centennial Secondary
<i>How I Started Studying Japanese</i> |
| 4 | Julia Lau
せいかつをバランス | Richmond Secondary
<i>Life Balance</i> |
| 5 | Monica Wu
SNS の機能と影響 | Richmond Secondary
<i>Social Media's Functions and Its Various Influences</i> |
| 6 | Shawn Wu
「謙虚」の「嘘」 | Richmond Secondary
<i>Modesty and Its Lies</i> |
| 7 | Abby Young
理解できる年齢 | R.A. McMath Secondary
<i>The Age of Understanding</i> |

「高校部門 中級」

- | | | |
|---|------------------|-------------------------------------|
| 1 | Elise Chan
謙虚 | Moscrop Secondary
<i>Modesty</i> |
| 2 | Hanna Ha | R.A. McMath Secondary |

美術の冒険

Art Adventure

- | | | |
|---|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 3 | Isabel Hebert
ソーシャルメディアと若者のメンタルヘルス | Britannia Secondary
<i>Social Media and Youth Mental Health</i> |
| 4 | Lexi Lawson
小さい植物 | R.A. McMath Secondary
<i>Little Plant</i> |
| 5 | Josh Liu
文化を守る | Richmond Secondary
<i>Preserving Our Culture</i> |
| 6 | Hailan (Helen) Tan
自分を大切にすることの大切さ | Richmond Secondary
<i>The Importance of Self Compassion</i> |

「高校部門 オープン」

- | | | |
|---|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Yihuazi Chen
お金の重要性 | Maple Hill School
<i>How Important Is Money</i> |
| 2 | Will Chen
人生を歩み続ける中での適応性の大切さ | Richmond Secondary
<i>The Importance of Adaptability As We Continue To Move Through Life</i> |
| 3 | Michael Fan
宿題量を制限 | Richmond Secondary
<i>Limiting the Amount of Homework</i> |
| 4 | Kippei Shoji
僕と芸術 | R.A. McMath Secondary
<i>Art and I</i> |
| 5 | Katelyn Makihara
自由を捨てて見つけた自由 | Richmond Secondary
<i>Finding Freedom</i> |

6 Hikaru Ozduman
日本語の深さ

Thomas Haney Secondary
The Depth of Japanese

「大学部門 初級」

1 Corey Chan
後悔はない

UBC
No Regrets

2 Helen Huang
見えない彼ら

UBC
Unnoticed Them

3 Michael Loo
言葉を学ぶには、動物と同じでなければならない

Vancouver Japanese Language School
To Learn a Language, Be Like an Animal

4 Brady Reeleder
挫折がくれたもの

UBC
The Thing I Received from a Set Back

5 Heao Sun
日本のサッカー

UBC
Japanese Soccer

「大学部門 中級」

1 Kristy Han
蝶

UBC
Butterfly

2 Forest Kobayashi
記憶

UBC
Memory

3 Harry Kwon

UBC

逃げたところには楽園がない

There's No Paradise For Us to Escape To

4 Shu-Chi (Gigi) Liew

UBC

今のゲームトレンド

Current Gaming Trends

5 Brien Lo

UBC

10歳で仕事を始めた僕

I Started Working at the Age of 10

6 Raymond Mok

UBC

教師の旅路

A Teacher's Journey

7 Serena Pong

UBC

どこに引っ越しても、カルチャーショックを受けない方法

How Not to Have Culture Shock, No Matter Where You Move To

8 Mattias Sorensen

UBC

大人の友情プロジェクト

Adult Friendship Project

9 Christopher Chenghao Wang

UBC

過去の繭を破りましょう

Let's Break the Cocoon of the Past

「大学部門 上級」

1 Johnny Chen

UBC

猫

Cat

- | | | |
|---|------------------------------|--------------------------------------------------|
| 2 | Vandhana Kammampati
心の絆 | UBC
<i>Connected Through the Heart</i> |
| 3 | Ingrid Abigail Mas
写真と違う絵 | UBC
<i>A Drawing Different from the Photo</i> |
| 4 | Joon Woo Park
京都の飴ちゃん | UBC
<i>Ame-Chan in Kyoto</i> |
| 5 | Ryan Zhao
国家間の平等 | UBC
<i>Equality Among Nations</i> |

「大学部門 オープン」

- | | | |
|---|----------------------------|-----------------------------------------------|
| 1 | Naruhito Kruschen
虫の知らせ | UBC
<i>Message from an Insect</i> |
| 2 | Tielia Young
80歳まで学部生 | UBC
<i>Undergraduate till 80 Years Old</i> |
| 3 | Xihan Yun
サッカーと人生の哲学 | SFU
<i>Soccer and Life Philosophy</i> |

入賞者:

「高校部門」

初級

- | | | |
|------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| <u>第1位</u> | Victor Beas
文化の継承 | Vancouver Technical Secondary
<i>Cultural Inheritance</i> |
| <u>第2位</u> | Min Hong Kim
日本語の勉強を始めたきっかけ | Centennial Secondary
<i>How I Started Studying Japanese</i> |
| <u>第3位</u> | Shawn Wu
「謙虚」の「嘘」 | Richmond Secondary
<i>Modesty and Its Lies</i> |

中級

- | | | |
|------------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| <u>第1位</u> | Isabel Hebert
ソーシャルメディアと若者のメンタルヘルス | Britannia Secondary
<i>Social Media and Youth Mental Health</i> |
| <u>第2位</u> | Elise Chan
謙虚 | Moscrop Secondary
<i>Modesty</i> |
| <u>第3位</u> | Hailan (Helen) Tan
自分を大切にすることの大切さ | Richmond Secondary
<i>The Importance of Self Compassion</i> |
| <u>努力賞</u> | Lexi Lawson
小さい植物 | R.A. McMath Secondary
<i>Little Plant</i> |

オープン

第1位	Kippei Shoji 僕と芸術	R.A. McMath Secondary <i>Art and I</i>
第2位	Hikaru Ozduman 日本語の深さ	Thomas Haney Secondary <i>The Depth of Japanese</i>
第3位	Katelyn Makihara 自由を捨てて見つけた自由	Richmond Secondary <i>Finding Freedom</i>

「大学部門」

初級

第1位	Brady Reeleder 挫折がくれたもの	UBC <i>The Thing I Received from a Set Back</i>
第2位	Heao Sun 日本のサッカー	UBC <i>Japanese Soccer</i>
第3位	Corey Chan 後悔はない	UBC <i>No Regrets</i>

中級

第1位	Serena Pong どこに引っ越しても、カルチャー ショックを受けない方法	UBC <i>How Not to Have Culture Shock, No Matter Where You Move To</i>
第2位	Christopher Chenghao Wang	UBC

過去の繭を破りましょう

Let's Break the Cocoon of the Past

第3位

Harry Kwon

UBC

逃げたところには楽園がない

*There's No Paradise for Us to
Escape to*

努力賞

Kristy Han

UBC

蝶

Butterfly

上級

第1位

Joon Woo Park

UBC

京都の飴ちゃん

Ame-Chan in Kyoto

第2位

Ingrid Abigail Mas

UBC

写真と違う絵

A Drawing Different from the Photo

第3位

Vandhana Kammampati

UBC

心の絆

Connected Through the Heart

オープン

第1位

Tielia Young

UBC

80歳まで学部生

Undergraduate till 80 Years Old

第2位

Naruhito Kruschen

UBC

虫の知らせ

Message from an Insect

第3位

Xihan Yun

SFU

受賞者のスピーチ集

第35回 高校部門 初級 第1位

Victor Beas

ビクター・ベアス

文化の継承

おはようございます。僕の名前はビクターです。僕はチリで生まれ育ちました。南アメリカの南西にある細長い国です。伝統はあまりありません。普段は集まってサッカーを見るくらいしか、やることはありません。生活費は最低給与よりも高く、政府の汚職が多く、犯罪率が高く、住むのによい場所ではありません。僕が一番いやなのは、文化の欠如です。昔はあったのかもしれませんが、継承していません。先住民の祖先の文化も無視しています。

そんな国で育った僕が、ある日、日本のアニメに出会いました。アニメから日本の文化を学びました。料理やお祭り、季節の花、そしてなによりもそれらを大切にしている日本人が一番感動しました。先日僕の日本語のクラスは書初めをしました。憧れていた日本の文化がカナダで体験できるなんて、夢みたいだと思いました。海外にいても、日本の文化を大切に継承していく日本人は素晴らしいですね。

僕は、日本の大学に行きたいと思っています。そして実際に日本に住んで、日本の文化についてもっともっと学びたいです。文化を継承する事はアイデンティティーや愛国心につながると思います。文化は人生を豊かにしてくれます。そして文化交流をすることによって、人々の心を結びつけ、歩みより、争いのない世界が実現できます。残念ながら祖国のチリからは学べませんが、それを日本で学びたいです。一度失われてしまうと、二度と取り戻せない文化もあると思います。これ以上、チリの文化が失われないように、そして、チリ人のアイデンティティー意識が高まるように、いつか祖国に貢献できる人になりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

日本語の勉強を始めたきっかけ

皆さんはどんな理由で日本語を勉強しますか？私はいろいろな理由で日本語を勉強しています。アニメを英語字幕なしで見れるようになるとか、日本語の音楽を聞けるようになるなどたくさんの理由がありますがこれらは私が勉強しようと思った決定的理由ではありません。私が日本語を勉強しようと思った決定的なきっかけは今から約5年前にあったことです。5年前、私は関西地域にしゅうがく旅行に行きました。4泊5日の間に関西の有名な場所や食堂に行き、初めて食べた日本の料理はとってもおいしかったです。すき焼き、神戸ステーキ、焼肉などたくさんの食べ物を食べましたが、一番記憶に残る食べ物は納豆でした。納豆がとってもおいしくて毎朝納豆を食べました。二日目からはツアーガイドと一緒に旅行して日本語が分からないけど大丈夫でした。三日目にはツアーガイドなしでユニバーサルスタジオに行きました。朝行ったのに人が多すぎてアトラクションに乗るためには最低1時間は待たなければなりませんでした。並ぶのがとても退屈で私の前に立っていた私と年が似ている女子学生二人に声をかけました。その当時、私は日本語が全然できなくて英語で会話をしましたが、その二人は英語が下手でコミュニケーションに問題がありました。翻訳機を使いながら会話をしましたが、質問一つするのに時間がかかりすぎてもどかしかったです。旅行の後、私は日本旅行をもっと楽しく、文化をもっと詳しく感じるためには日本語ができなければならないと思いました。まだ日本語はうまくないけど一生懸命勉強していつか日本に留学したいです。

「謙虚」の「虚」

私は優柔不断な性格と裏腹に、周りの人(特に身近な人)の力になりたいとか、人に頼りたいとか、そういう気持ちがあります。この矛盾ともいえることについて語ってみたいと思います。

「心理学者でも何でもないだろ」と思っている方が多いかもしれないけれど、これはあくまでも私個人の考え、そして発見です。

SNS で友達と課題の話をしているある日のことです。その 1 人が宿題の手伝いを求めていると聞いたら、「へええー、日本語じゃん。僕超得意なんだけど手伝わせてもらおっか」と思い込みました。私はとんでもない自惚れの割には何も言いませんでしたけれどね。そもそも、なぜ「何も言わなくてもきつと助けを求めてくるんだ」とまるで意識的に自分を騙したんでしょうか？

その後、悔しさにも似た感情が湧きました。助けられなかった悔しさ？いや、多分違います。彼は結局、他の友人に頼みましたから、同じ結果といえれば同じ結果でした。私はただ有言実行よりも不言実行の方がカッコ良く見えて、それを貫こうとしました、まさにダークヒーローみたいに。他の理由は、この方が楽なのでしょうか。実力(または、その認識)を隠して、周りに期待させないように謙遜するという行為なので、これで失敗したら「だから言ったんだろ」とプレッシャーからなんとなく逃げられます。

この欺瞞はやはり不誠実です。その「謙遜しなきゃ」みたいな気持ちは相手に悪い影響があることもあると思います。ユーチューバーの宋世羅(そんせら)が極端な例えで説明しました。タイタニックが沈没したときに、「ええ、僕、泳ぐのは全然！」みたいな発言をしながらも、実はかなり得意で、球面ボートに先に乗ろうとしているだけという話です。まあ、それはもう最低じゃないですか？

要するに、謙遜はいいものとは限りません。逆に言えば悪意に結びつくのも不自然ではないと思います。けれど、あまり自慢すると、周りの人もいやになる可能性があります。どちらが美德かの話ではありませんが、この謙遜を常に正しいこととして捉えないようにするのはどうなのでしょう？

ソーシャルメディアと若者のメンタルヘルス

おはようございます。私の名前はイザベルです。実は、3 か月前にソーシャルメディアをやめました。今日は、私がソーシャルメディアをやめてよかったことについて、お話ししたいと思います。

インスタグラムをスクロールすると、どうしようもない不安を感じたことはありませんか。私は常に自分を他の人と比較し、落ち込んでいました。こんな高校生は、私だけ？ 他の高校生はどうなの？ 私はソーシャルメディアが若者のメンタルヘルスにどんな影響を与えているか真剣に調べてみたいと思いました。

2020 年、Meta は、Instagram に表示されるダイエット情報が摂食障害を引き起こすかもしれないことを認めました。アメリカで情報調査をするピュー研究所によると、45%の高校生は他人のソーシャルメディアの過剰な演出に圧倒され、自分の投稿や「いいね」をもらうことに重圧を感じていると答えました。重圧を感じながらもソーシャルメディアにしばられるのは、メンタルヘルスに悪いと思いませんか。

私はソーシャルメディアをやめてから、自分自身に対する否定的な考えが少なくなっていることに気づきました。また、いろいろなことに集中できるようにもなり、成績があがりました。学校で友達ができました。睡眠時間が増えたので、体調も良くなりました。家族との時間もできました。何よりも嬉しかったのは、私の変化に両親が気づいてくれたことです。明るくなったねと言ってくれました。

みなさんに、ソーシャルメディアが自分に適しているかどうかを自問することをおすすめします。もし、気持ちが不安になってきたら、私のようにソーシャルメディアを一時的にやめてみてはどうでしょうか。なくても意外と大丈夫だということに気づくと思います。

謙虚

世間的に、謙虚さは美德の一つだと思われるでしょう。他人に自分の長所や功績を称賛される際でも、傲慢な態度を取らず、常に自分の短所を理解して、改善するのは素敵な事です。

香港で育った私は小さい頃両親から謙虚である大切さを教わりました。それが人を傷つけない、人との関係を円滑にする方法だからです。例えば、毎年旧正月には、両親が私と妹を豪華な中華料理店に連れて行き、久しぶりに親戚とご飯を食べます。けれど、みんなが喜ぶ日のはずなのに、私はそれが大嫌いです。何故ならみんなが謙虚である事を気にしすぎて、本音を言わなくなるからです。

「〇〇さんがトレーニングをしてるの！すごいですね！」「いえいえ、大した事ではありません、そちらこそすごいですよ！」みたいな既に決まった台詞を言って、絶対自分を一番低いポジションに置くのです。私はその状況を見て思ったんです。何故素直に喜ばないの？何故他人の好意を受け取れないの？そもそも年に一二回しか会わない人ばかりだし、そういう品格の高さを争う会話をするだけなら別に会わない方がいいじゃないですか。

私からすると、謙虚であることは暗黙のルールになってしまい、周りの人がやってるからやらなければならない事で、最終的に癖になる整形手術みたいに、最初から壊れそうな関係を繰り返して修復するだけで、長持ちしないし、表面的な人間関係を保つだけです。

世間は謙虚の意味を履き違えているように思います。謙虚とは、建前ではなく、他人の前で卑屈になる訳でもなく、相手のことを尊重した上で、素直な気持ちを伝える事です。また、常に自分のいい所と悪い所を客観的に分析し、自分は改善の余地がある事を理解して、自分を磨き続けることを誇りに思うことなんです。

だからここにいる皆さん、あなたたちは謙虚な人です！皆さんは自分の大切な時間を使って、この日本語弁論大会に参加している事を誇りに思ってください！今日は完璧な成果を出せないかもしれませんが、挑戦する決意があるだけであなたたちはすごいです！

自分を大切にすることの大切さ

こんにちは皆さん、私はリッチモンド高校から来たヘレンです。今日は、「自分を大切にすることの大切さ」について話していきたいと思います。

私にとって最も重要なことは自分を大切にすることです。二年前、私は毎日放課後友達勉強の手伝いをしてから、アルバイトに行、家に帰ったら夜中まで宿題をしました。毎日忙しくて、「一時寝なくても、食べなくても大丈夫だ」と思ったこともありました。ある日、昼間は忙し過ぎめ、夜中の三時まで起きて、次の日のテストの勉強をしていました。結局寝不足のせいでテストに落ちました。テストに落ちた事がなかった私にとって、空が落ちて来るかのようなでした。が原因だと思い、その日後、以前よりも自分に厳しくしました。そんな私を見て、父はこう言いました。「人には限界がある。大人でも、一日中働いた後は休むでしょう。無茶に体を壊して勉強やアルバイトをしても逆効果になるだけ。」

それ以来、私はバイトの時間を減らして、友達勉強を手伝う前に自分の宿題を済ませるようにしています。そして、宿題をする時、タイマーをつけて、休憩時間をスケジュールの一部にしています。最初はただ自分の気分を直したかただけなので、成績が少し落ちても大丈夫だと思っていました。でも、代わりに、勉強と試験を受けることがより簡単になったのは不思議だと思いました。こんなにダラダラ結果はよくなった。面白いですね。でもこれは偶然でも魔法でもなく、科学的に証明されている事です。人の心と体の相互作用は強いので、ストレスを減らしたら、かつては難しいと思った事実際にはかなり簡単な事だったとすぐ分かってきます。

心と体整、より多くのことが達成できると気付きました。だから、私は自分を大切にすることが一番大事だと思います。皆さん自分を大事にしていますか。

ごせいちょう ありがとうございます。

小さい植物

地植物・女の中に・生えるかな？

皆さん、この俳句は少し変わっていますか？変わっていますが、私が書いた俳句です。私はたくさん俳句と他の詩を書きました。この俳句は疑問の種が私達の頭の中で発生することで、未来にしたいことを最終的に妨げてしまうことについての俳句です。よく私もなにかの第1歩をふむことに「きょふ」恐怖を感じてしまいます。ある日、このことについて詩を書いたらいいと思いました。すぐに、書きはじめてから、作文を書くのがもっと大好きになりました。

子供の頃「大人になったら、何になりたいですか？」とよく聞かれます。大半の子供はわかりません。そして、幼少期の大半の間にそのことについて考えます。私にとって、その質問は仕事だけではありません。その質問は全部の趣味や、家族や、功績などです。その時、私はどう纏めてればいいのか分からなかったので、思いついたことを書き出し始めました。それから、本当に楽しかったので、もっともっと書いていきました。書けば書くほど様式を知ることが出来ました。考えを書く時にその問題についてよく考えられました。そして、そのように自分の考えもよく分かるようになりました。

子供でも、大人になっても、関係ないです。皆さん、書いてみましょう！本当に一番力のある方法だと思います。記憶に、残ったり、難しい話題を考えたり出来て、書くのは皆さんを助けます。私の目的はたくさんの人を教えて、人々に「Nanowrimo」というプログラムを紹介することです。このプログラムを使って皆さんも自分の作文がうまく書けるようになります。さいごに私の友人が詩の一分を読みたいと思います。

「では、メロディーをありがとう・ぜったいに悲しまない・いつかきっと・私もデュエットできるとねがう」

皆さん、私の友人の詩が分かりましたか。分からなくてもいいです。自分が書いた詩や作文などは、自分の為です。簡単なのも複雑なものもかまいません。一番大事なことは自分と自分の著作物の関係です。皆さん、自分の書いた物を楽しんで守って下さい。ご清聴ありがとうございました。

僕と芸術

皆さんこんにちは、庄司暉平です。僕は絵を描くこと、物を作ることが大好きです。僕は4歳の時に自閉症と診断(しんだん)されました。今日は僕が、自閉症の治療(ちりょう)を通して、どの様に絵に興味を持ち、これからどのように作品制作(さくひんせいさく)に向き合っていこうとしているかをお話します。

まずは、自閉症の主(おも)な症状(しょうじょう)を説明させてください。

- 1、人とのコミュニケーションや、他人の感情を読み取るのが不得意(ふとくい)
- 2、自分の感情を言葉で伝えるのが難しいなどです。

自閉症の子供たちが生活しやすいように訓練(くんれん)をする際(さい)、絵カードや写真などが使われます。絵カードには、言葉の意味や日常生活の手順(てじゅん)がわかりやすくなるような工夫(くふう)がされています。僕はこの絵カードや写真を見ることで、理解を深め、言葉をおぼえることができました。そして、絵カードが、他人に僕の感情や思いを伝えるツールにもなるということ、ある事をきっかけに気づきました。

それは、母の友人に絵を描いて送った時のことです。、彼女はとても喜(よろこ)び、その絵を額(がく)に入れて部屋に飾ってくれたのです。僕の彼女への大好きという気持ちを絵にすることで、絵カードのように、僕の心が伝わったのです。それからは自分で描(えが)いたカードを色々(いろいろ)な人に贈(おく)りました。誰かが喜(よろこ)んでくれるのが本当に嬉しくて、一生懸命絵を描くようになりました。そしてもっともっと絵がうまくなりたいと思いました。これがアートを作るきっかけになったのです。

九月から僕は大学でファインアートを勉強します。新しい事を学べると思うと楽しみでワクワクします。これから作っていく作品にははっきりとしたテーマを持って、それを表現していけたらいいと考えています。明るく夢のある世界はもちろんのこと、社会問題など、僕自身いつも興味を持って調べていることを作品にしていこうと思います。

そして、最も大切なテーマとして取り組みたいのは、自閉症の人たちの「心の声」や「感じ方」を作品を通して伝えることです。自閉症の人たちの感覚(かんかく)はとても不安定(ふあんてい)です。例えば、人は物の見え方、聞こえ方が大きく違ったりするのです。でもそれはとてもユニークで、自閉症らしい感性(かんせい)なので、そこをアートとして表現してみたいです。定型発達(ていけいはったつ)の人達があたりまえに出来る事でも、自閉症の人達にはできない事がよくあります。

そのために相手を怒(おこ)らせたり、誤解(ごかい)されたりすることがあります。それによって、自閉症の人達は傷(きず)ついたりするのです。

僕が、“自閉症だからこそ理解できる”部分にスポットを当てた作品を創(つく)り、それを観(み)る人達に、自閉症の人達の感じ方や考え方の違いを知ってもらうきっかけになれば良いと思います。僕自身、まだまだ伝えたいことがうまく言えなかったり、相手の言っていることが理解できなかったりします。好きなアートでも思うように表現ができずに悩んだりしています。でも周りの人たちに助けてもらったおかげで少しずつ出来ることが増えています。本当に感謝しています。少しずつ、世の中がよくなってゆき、自閉症に対する理解も広まるきっかけになるようなアートを創っていくことが僕の目標です。

今日は僕のスピーチを聞いてくださり、ありがとうございました。

日本語の深さ

僕は、皆さんのように生まれた国の言葉を話し、勉強してきました。カナダ生まれの僕は、英語が母国語ですが、これまで英語の他に、学校でもフランス語、スペイン語、そして日本語を学びました。その中でも日本語は、一番長く 10 年間くらい学んでいますが、この言語がどれほど複雑で難しいのか実感しています。日常会話ができるようになって、ひらがなやカタカナ、そしてある程度の漢字を覚えても、本当に日本語を習得できるようになるのは、簡単ではありません。難しくなると文章の意味を把握するのが大変です。基本的に、ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きも含めて相当な量を覚えなくてはなりません。一つの漢字でもいろんな意味があり、音読みや訓読みを含めると、全部覚えてしまうことは不可能に近いと思います。それから、日本語には、敬語があり、人と場合によって尊敬語、丁寧語、謙譲語の使い分けをしなければなりません。日本語は、世界で最も難しい言語の一つと言われるのも納得です。

僕が小学校一年生の時、日本に 11 か月ほど滞在した経験があります。それまで、全く日本語を話すことができなかったのが、先生や友達のおかげで少しずつ話せるようになりました。今思い出してみると、日本語がよくわからなかったので間違った意味の言葉を使ったりして、気持ちが伝わらなかったこともありました。その為、いろいろと人に迷惑をかけていたかもしれません。それでも、先生方は、何もわからなかった僕を優しく見守ってくれた記憶があります。周りの人たちも僕の日本語が上達するように助けてくれました。その時から僕は、日本語の勉強を続けています。日本を訪れた時はいつも、言葉で表さなくても人々の気配りや優しさを感じます。僕は、日本語の深さは、日本人の心の深さがあるからだと思います。

最後に、僕が最も深いと思う日本語は、古典、短歌、俳句など、昔の日本人が作り出した文学です。僕にとっては、内容が奥深く、曖昧な感じで理解する事が難しいです。例えば、平家物語の冒頭にある、“祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす、奢れるも久しからず、ただ春の夜の夢のごとし”という文です。世の中は常に変わっていく、権力のある人も長くは続かないという意味だそうですが、描写が、素晴らしいと思います。鐘の声や花の色にたとえた表現も興味深く、その当時の風景が頭に浮かびます。短歌や俳句も同じく、昔から日本人は、想像力を働かせながら日本語を楽しんでいたのではないのでしょうか。僕は、これからも難しくても奥が深い日本語の勉強を続けていきたいです。そして、将来いろんな分野の日本語の本を読むことができるようになれば良いと思います。

自由を捨てて見つけた自由

生まれてこの方16年、私は言葉を愛し、言葉と共に生きてきました。言葉の奥深さ、美しさ、そして何よりもその自由さにひかれ、私は文学に熱中してきました。ありとあらゆる本を読み、その物語を吸収し、我が身に刻むことを繰り返してきました。

そして、私は一つの夢を抱きました。「いつか言葉の力を借り、自分の自由な世界を書いてみたい。」その夢のため、私は常に新しい文学との出会いを通し、言葉との絆を深めるよう努めてきました。

しかし、こんな私にも言葉と離れて暮らした時期がありました。14歳の冬、私は友達との関係に苦戦し、不登校となってしまいました。その理由は対人恐怖症。それは他人の意見や反応を気にしすぎ、他人との交流を拒否するようになる、生活に大きな支障を来す病気です。いつからか、私は友達の言葉に潜む呆れや苛立ちに対し、「今彼女、ちょっと怒ってそうだったな。嫌われちゃったかな。」と、恐れるようになりました。

恐れは恐れを招き、時と共に私に対する言葉の全てが非難に聞こえるようになりました。発言に悪意を感じたら、それを事実のように信じ、落ち込み病んでいく毎日でした。やがて、言葉は恐怖の対象となり、その恐怖は脳を占領し、私の考えから自由を奪っていきました。私は言葉から、学校から逃げました。ですが、私を迎えたのは酷くつまらない、暗い毎日でした。逃げて初めて言葉への愛が私の支えであったことに気づきました。生活に光を取り戻すためには、自分が見失った自由な言葉を思い出す必要がありました。

言葉の意味は読み手によって変わります。ですから、物語は人それぞれに異なる世界を見せてくれます。その世界は自分だけのものであり、誰にも否定されることなく存在します。この想像の自由こそが私が言葉にひかれた理由でした。振り返る中、私はあることに気づきました。

人の発言には決まった意図があり、自由な解釈は誤解を生む恐れがある。それは自分、そして相手をも傷つけることになる。私のように言葉を恐れ、自由を奪われる人も現れる。そう気づき、私は言葉がくれる想像の自由を捨てました。人の発言の意味を自由に想像せず、正確な意図を相手に問うことを意識しました。こうして、私は言葉を恐れず自由に人と接するようになれました。自由を捨てて見つけた自由こそが私らしく言葉を楽しみ生きていける秘訣です。ご清聴ありがとうございました。

挫折がくれたもの

みなさんはどうしても手放すことができない、心から好きなものがありますか。

私にとってそれは体操でした。2歳から体操をはじめ、8歳の時には、1週間に、16時間トレーニングをしていました。練習は楽ではありませんでしたが、毎日体操をするのが本当に楽しかったです。そして、10歳のときそれまでの努力が報われ、BC州の12歳以下の部門で優勝しました。さらに次の年、16歳以下の大会で2位になりました。全てが順調に行っていてオリンピックに出るという夢さえも持ち始めていました。

しかし、私の体操人生を変える出来事が起きてしまいました。ある日、新しいテクニックを練習していたときに、突然、肩からバキバキと大きな音が聞こえ、私はそのまま地面に倒れました。レントゲンの結果、一年間体操を休まなければいけなくなりました。それでも、治療の間、練習場に行って、リハビリや簡単なトレーニングなどできることをしていましたが、他の選手が体操をしているのを見ると悔しくて、練習場に行くのがだんだん嫌になりました。ですが、「また大好きな体操に戻ることができる、まだ終わりじゃない」と希望を持つとうとしました。しかし、それも最初の数ヶ月だけで、その後、少しずつ、少しずつ希望が薄れていきました。

そんな中、我慢強く待ったおかげか、トレーニングの許可がおりましたが、その時にはもう遅く、私の体操への情熱は完全にきえていました。あんなに好きだったものが、もう私の心の中には存在しなかったのです。それに気づいた時、私は泣き崩れました。その後、肩は完全に治りましたが、体操への情熱は戻らず、きっぱりやめることにしました。体操は私にとって人生そのものでした。そんな大切なものを失くして、私は抜け殻のようでした。そんな時、父がラグビーを勧めてくれました。最初はあまり乗り気じゃありませんでしたが、初めての練習でラグビーの虜になり、失くしたはずの情熱や、新しい目標が生まれたのを感じました。高校に入ってから、BC州の代表として何度も大会に出て、今ではUBCの強いラグビーチームでプレーしています。体操で怪我をして、出口の見えないトンネルにいるような一年の中で、私は前に進み続けました。体操という情熱は失くなってしまいましたが、そのおかげで新しい自分に出会えました。

あきらめるなどよく言われますが、それはそんなに悪いことでしょうか。

大切なものをあきらめること、手放すことは、辛いことです。ですが、わたしは体操で躓き、一つの夢を手放したからこそ、いまこうして大好きなラグビーができています。近(ちか)い将来(しょうらい)ラグビーで有名な帝京大学に留学して、ラグビーをしたいと思っています。聞いてくださってありがとうございました。

日本のサッカー

私は運動が好きです。特にサッカーに興味があって、サッカーをするのも見るのも大好きです。しかし、中国人として、私の人生で思い浮かぶ中国サッカーのきおくは、中国のチームが何度も WorldCup 出場の機会をのがしてきたことです。ワールドカップで自分の国を応援できることは本当にうらやましいです。そして、去年のワールドカップでは、サッカー日本だいひょうがアジアのチームもヨーロッパの強いチームに勝てるという可能性を見せてくれました。クロアチアに負けたのは残念でしたが、ドイツとスペインにかかった時のパフォーマンスは素晴らしかったです。

サッカー日本だいひょうが成功した理由は何でしょうか？一人のサッカーファンの外国人のしゅてんから、自分の考えを少し述べさせていたいただきたいと思います。

まず、一つ目の理由は、日本はとても成熟したサッカー文化を持っていることです。小学校から大学まで色々なリーグがあります。統計によると、日本サッカーきょうかいのメンバーとして、サッカーに関わっている人は500万人以上いるそうです。また、今ヨーロッパのクラブに日本の選手もたくさんいます。例えば、みとまかおる(三笥薫)選手とみなみのたくみ(南野拓実)選手は今世界のサッカーの舞台で輝いています。

二つ目の理由は、日本の選手があきらめない信念を持っていることです。

2022 年のワールドカップでは、日本のチームはよく初めは負けていても、後でぎゃくてんしました。特に、スペインとの試合で、みとま選手はフィールドの外に出そうになったボールを1.88 ミリで中に戻しました。そのおかげで日本はゴールを決めて、試合に勝ちました。

日本のチームメンバーはいつもお互いに信頼しあって、強いきずながあるし、あきらめない信念もあるし、彼らをもっとすすむことができると思います。日本のサッカーは日本から世界に出て、アジアサッカーをてらす光になりました。

よく考えると、人生もこんな感じじゃないでしょうか。成功は何回もチャレンジして、何回も失敗した後にこそ来るのです。ですから、あきらめない信念を持っている人だけが成功できるのだと思います。

以上が私の考えです。聞いてくださってありがとうございました。

「後悔はない」

皆さん、後悔がたくさんありますか。選択をもうしたのに、なんか間違えたみたいだと思いうという経験がありますか。例えば、「あっ！そのミスをしなければ良かった」とか、「もしちゃんと準備しておいたら、こんな事が避けられたはずだ」とか、こんな経験を皆さんはよくしたことがありますか。大人として、きっと色々な選択をしますが、どうやって正しい選択を見つけますか。このことについて自分の経験を話したいと思います。

2年前に私は高校の科目を選ばなきゃいけませんでしたが、悩みがありました。美術を取りたかったんですが、私は絵を描くのが下手すぎたし、嫌いになって、小学生の時に諦めてしまったんです。だから、こんな時にもう一度美術をとったら、きっと難くなるかもしれないし、後悔しそうだと思いました。でも、その時にある漫画家のおかげで、私は自信が出て、美術をとりました。

私はこの漫画家をコロナの時に知りました。その時、どこにもいけない私はずっと家にいて、「あ～！つまらないな～」と思っていましたから、新しい趣味を探そうと思いました。その間に、ユーチューブでこの漫画家の動画をたまたま見ました。彼は動画で絵を描きながら、自分の経験を話してくれました。例えば、彼によると、漫画家という仕事は大変だそうでした。彼は「この仕事を始めた時、ずっと残業しなければいけなかったし、本当に最悪だと思ったんだ」と言いました。

しかし、この漫画家は諦めませんでした。彼は本当に漫画が大好きだそうでしたから。そして、彼はいい考えを思いつきました。彼は「自分しか持っていない物を使ったら、きっと素晴らしい漫画が描ける」と言いました。つまり、自分の経験や特技を使ったら、何でもできるはずだということです。私はこの言葉を聞いてから、よく考えました。確かに、私は絵がよく描けなかったけど、自分しか持っていない物があったはずです。それは自分の情熱かもしれませんでした。私は他の人に面白くて可笑しい絵を描いてあげたかったんです。この目標のために、私は諦められないと思いましたから、美術をとりました。そして、後悔も消えていました。

自分の夢が叶えられるかどうか、正直、私は分かりませんが、ただ一つだけ知っています。皆さんはある夢や目標の為に自分の好きな道を選んだでしょう。だから、こんな時に後悔してはいけません。絶対に諦めないで下さい。道をまっすぐ行かなきゃいけないんです。道の終わりにきっと自分の夢が待っているはずなのです。

私のことを聞いてくださってありがとうございました。

どこに引っ越しても、カルチャーショックを受けない方法

一日中、学校や会社で頑張っ、疲れたら、みなさんは安心できる場所に帰ることを楽しみにするでしょう。悩みもストレスも忘れて、自分らしさを出せる所、つまり自分の居場所は様々な要素から成り立っている複雑なものと言えます。

私の一番目の居場所は生まれ育ったカリフォルニアです。と言っても、実は人生の最初の十八年のうちに四回も引っ越しましたが、悲しく感じたことはありませんでした。

まだ子供だった私の理解では、いつも両親と一緒にだったからだと思いました。絶えず変わる状況の中で私が頼れた変わらないことは、両親が側にいてくれたことでした。ですから、私の幸せな日々も変わらなく続くというわけだと信じていました。

しかし、私の二番目の居場所であるバンクーバーで子供の時の考え方は間違っていたと分かりました。最も大事な点は、住んでいる環境に慣れなければ、その場所を自分の居場所となかなか呼べないということです。私がバンクーバーに着いたばかりの時に土地の道や建物の配置に全然慣れられなくて、困っていました。そんなカルチャーショックのせいでここが自分の居場所になるなんて決してないと強く思っていました。街やカナダの生活習慣に慣れてきて、私が安心し始めました。それから、だんだんバンクーバーを二番目の居場所として見られるようになってきました。

新しく分かったもう一点の大切なことは、家族と呼べる人は血で結ばれている人に限らず、友達も家族のように親しくなれるということです。去年の夏休みに受けていた授業でできた友達は友達になったばかりだったのに、私の誕生日に最高のプレゼントをくれました。その友達は私が一人暮らしをしていると聞いたら、私が家族もいない寂しい誕生日を過ごさないように、ケーキを買って、クラスのみんなとサプライズパーティーをしてくれました。何も期待していなかった私は笑いが止まらないほど嬉しくて、その友達の心遣いにもとても感動しました。そんな友達ができて、新しい家族が集まってきたからこそモノクロのバンクーバーが居場所の温かい色に染まるようになってきたと言えます。

私の三番目の居場所は意外なことに東京です。日本に住んだことがないのに、四年間日本語を勉強したおかげでこの冬休みに東京を旅行したら、自分は観光客であるということをほとんど忘れました。電車を待っている時にスピーカーから流れてくるアナウンスや周りの人の日常会話を聞いて、内容が分かりました。薬屋で日本語で返品すると、相手がちゃんと日本語で答えて、温かく助けてくれて、地元住人として見られていると感じました。私と日本人は言語という共通点しかないようですが、実は言語を勉強すると、ただ言葉だけではなくて、その言語を話す人の考え方や価値観も理解するようになります。ですから、外国にいても、日本語で日本人や日本文化と深く繋がっている私が居場所に帰った気がしました。

血で結ばれていなくてもいい家族。住んでいる環境に慣れること。そして、地元住人と同じ言語を話せること。この三つのことさえあれば、どこに引っ越しても、カルチャーショックを受けないで、すぐその場所に対する愛情を抱くようになれる。土地の言語を話さないで済めると思う人もいるかもしれませんが、周りの人と共通語がなければ、大切なことを伝えられないし、私の経験したような不思議な愛情をやはり感じにくいのではないのでしょうか。結局のところ、愛情の絆のおかげで、ただ住んでいる場所から、自分の安心できる大事な居場所に、どんどん変わっていくのではないのでしょうか。聞いてくださってありがとうございました。

過去の繭を破りましょう

日本の伝統的な衣装である着物に使われているのは、絹という生地です。絹は蚕という蛾の蛹の繭からとられた糸で織られ、染められます。美しく上質な蚕の糸を得るためには、繭をお湯に浸して破ることが必要です。蛹がお湯に浸つかるという痛みには耐えられないと、いつまでも繭のままで、立派な絹になることができません。この過程で、私は自分の経験をいくつか思い浮かべました。

上海の高校にいたとき、あるイギリス人の先生が、八百屋さんで過剰な料金を請求されたと私に訴えました。その先生は、中国の多くの経営者が、ヨーロッパ系の「外国人」はお金持ちで中国語が理解できないと思い込んでいると説明しました。愛想のいい先生は、私の高校からわずかな給料しかもらっておらず、完璧な中国語を話すことができるにもかかわらず、争いを起こしたくなかったので、いつも不当な値段を支払っていたのです。

私は新時代がもたらす異文化との出会いに特に興味を感じています。しかし、新時代といっても、そこには必ず古い時代の影響があり、さまざまな形で私たちを悩ませ続けていることを忘れてはなりません。四年前、私はアリゾナ州の高校に一学期間の交換留学をしました。出発前、祖母はかなり取り乱した様子で、「体に気をつけなさい」と言って、まるで戦場に行くような気分でした。

しかし、時代遅れの誤解にとらわれているのは、私たち中国人だけではありません。その交換留学中に会った一人のアメリカ人の先生は、私に本当に中国から来たのかと確認しました。先生は、私ほど流暢に英語で会話し、書くこともできる中国人留学生には、会ったことはないと言い、アメリカに長く滞在していたかどうかを尋ねました。これはつまり、先生の中国人のイメージは、英語で自分を表現することができない、野暮ったくて自信がないというものでした。やはり、過去の繭を破ることは難しいです。国際学校の教師でも、前の世代の中国人留学生が築き上げた幻想から逃れることはできないようでした。

しかし、そのような固定観念は過去のものになりつつあります。世界中の教授が、語学力も学力もある中国からの留学生に出会う機会が増えれば、優秀な留学生がいても不思議ではなくなります。また、海外に出て異文化に接する人が増えれば、私の祖母のような、固まった過去の物語に縛られることもなくなるでしょう。面白いのは、祖母にアリゾナでの体験、地元の人々の心の温かさについて話したら、喜んでアメリカを「行きたくない外国」から、「最も行きたい外国」にしたことです。

私の高校の近くの八百屋さんも、今は自分の失礼な態度を悔いているそうです。だんだん外国人のお客さんが増えてくると、もう差別的な扱いはしなくなり、時折、中国語訛りの英語で販売することもあるそうです。一方、イギリス人の先生もさまざまな決済方式を学び、上海での生活に徐々に溶け込んでいるようです。古い時代は繭のように私たちを外の危険から守り、温もりと安らぎを与えてくれます。しかし、過去の思い出や体験に頼りすぎると、未来に向けた真の意味での交流が妨げられることもありますし、繭が壁となって外の美しい世界から我々を遮断することもあります。私は上品な服装を作るためには、繭をお湯に突っ込み、痛みを伴いながらも絹を手に入れなければならないのだと強く思います。古い価値観や固定観念から解放されたよりよい人生は、まさに絹のようなものなのではないでしょうか。だから皆さん、絹を作るプロセスから学び、古い時代に囚われないで、新しい時代を受け入れましょう。

ご清聴ありがとうございました。

逃げたところには楽園がない

「逃げ出した先に楽園なんてありやしねえのさ」。これはある漫画のキャラクターのセリフです。皆さんは何かから逃げた経験がありますか？ 私はたいていまず逃げることを考えます。道を歩いていて会った犬が怖くて、飛んでくる蜂が怖くて、人間関係が大変で、勉強が難しくて、いろいろな理由で逃げた経験があります。実は今も緊張してこのコンテストから逃げたい気持ちです。

「逃げたところに楽園はない」、三浦健太郎の漫画、ベルセルクに出てきたこのセリフは逃げてたどり着いた所にも新しい問題があるので、ここで問題に立ち向かう覚悟がなければ逃げないほうがいいという意味です。私も逃げてばかりいるので本当に共感できる言葉です。

高校時代、私は一生懸命勉強した学生でした。一流の大学に入るために、勉強ばかりではなくて、放送部や、バンド部などいろいろな部活動もしながら、良い友達に囲まれていたおかげで、学生会長にもなりました。

先輩の学生会長たちがみんないい大学に行ったので、自然に学校を代表していた私も先輩たちに負けない大学に行かなければならないと思って一生懸命勉強しました。

日本のように韓国にも全国的に受ける修学能力評価という入学試験があって、毎年1回だけ受けられます。入学試験以外にもいろいろな方法で大学に行けますが、良い大学に行くために、私はこの試験でいい成績をとらなければいけませんでした。

しかし、その年、とても難しかったこの入学試験に落ちて希望の大学に行けなくなりました。

大学に進学するためには、その時点で自分の成績で入れる大学に行くことや、1年間浪人して次の年の試験を受けることもできますが、難しすぎる入学試験の勉強をもう一度繰り返すのが怖くて、友人や先生の関心も負担になっていたので私はバンクーバーに逃げることにしました。つまり留学です。

入学試験から逃げることに成功しましたが、文化と言語の違いのためにカナダでの勉強も難しかったです。知らない英語の単語が多かったので、同じことを勉強しても他の友達より時間がもっとかかって入学試験の勉強と同じように頑張らなければなりませんでした。

しかも、韓国の大学と比べると、編入という形でバンクーバーの良い大学に入りやすかったのですが、いい成績を取るのがとても難しく、それに、卒業するのも難しそうですから、一生懸命勉強し続けなければなりません。

その時思い出したのが、「逃げた所に楽園はない」という冒頭の漫画のセリフでした。

きっと楽園だと思っていたカナダの生活も、逃げる前の生活と比べても、全然簡単ではありませんでした。

これから生きていく人生もきっと同じでしょう。大学を卒業して進学するか、就職するか悩む時も、それに就職をしてからも、色々な問題にぶち当たりながら生きていくことになるでしょう。

実は、もうすぐ私は、兵役の時期を迎えます。カナダ人になれば逃げられるかなと、考えないわけではありません。しかし、兵役から逃げても、また新しい問題が生じることを知っています。私は逃げないで、来年韓国に帰って軍隊に入るつもりです。難しい韓国の試験システムから逃げてここにきましたが…、ここにいる UBC の皆さんはよく知っていると思いますが、UBC でいい成績を取ることはとても大変なことですよね。どこに逃げても結局は苦勞する訳ですから、僕は兵役に行こうと思います。兵役をすることが僕の運命なのです。逃げたところには楽園がないんですから。

僕の「逃げないけ決心」を聞いてくださってありがとうございました。ここで宣言してしまいましたから、もう逃げられません！

蝶

「あなたは運がいい、女性として感謝すべきだ」とよく言われます。自分でも運がいいとは思いますが、まだ「女嫌い」や女性である事で嫌な思いをした事がないからといって、当たり前のように運がいいと言われて、どれだけの人が絶望の中で生きているのかに気づきました。

私は暖かい町で大切に育てられて、芋虫から蝶になったような気がしていました。でも、段々と周りに性差別が多い事に気づきました。例えば、従姉は今四十代で、優秀で、故郷で研究をしています。でも、親戚はいつも「学歴が高いと結婚相手が見つからないよ。いつも親に心配をかけて、年をとったらどうするの？」などとあからさまに彼女に言っています。ただ結婚しないというだけで、全ての努力が水の泡になってしまいそうです。従姉は私の憧れの存在でしたが、いつの間にか批判される事を恐れ、彼女みたいになりたくないと思うようになりました。最近、両親も「従姉のまねをしないで、結婚して子供を生んでこそ人生」という話を持ち出すようになってきました。まさか一番の理解者である両親も私にこういう期待を持っている事に驚きました。いつか私も従姉と同じような惨めな状況になると思うと怖いです

両親によく「女の子だから、絶対夜一人で外出しないで」と言われましたが、そういう言い方をされるのが大嫌いでした。何も起こらないと信じていましたが、中学時代、クラスメイトが夜遅く帰る時に「ランダムアタック」によって殺害されました。悲しみよりも先に怒りだけを感じました。彼女を狙った唯一の理由は弱い女の子に見えたからだろう。もしあの日放課後私が一緒にいたら、彼女はまだ生きていたのかな。もし私が学校に残っていたら、被害者になっていたんだらうか。私があの日選択を変えていればよかった、そんなふうにいつもいつも繰り返し考えています。

女性であることで、友人は家族にセクハラをされ、大学の先輩は職場格差に悩み、私の運も長く続かないと思っています。女性の人格保護はいつも優先されていないようです。彼女たちはみな苦痛を我慢し、受け入れるしかない状況にいますが、私が何もできなくて、苦しいです。女性である事を狙われて起きた事件は、本当に二十一世紀に生きているのかと疑ったほどです。人権を無視して、権利を奪い、尊厳を踏みにじている人を見て、時代は前進していても、社会は後退しているようです。薬の効果、車のプロテクション、さらにはピアノのデザイン、すべてが女性が基準ではありません。ピンクタックス、メディアの女性いじめ、女性に対する汚い言葉使いなどは昔からずっとあるから、正常だ、伝統だから普通だと思われています。それなら、新しい「正常」を作りたい、女性も「基準」になってほしいのです。もう「女だから」というゴミのような理由は聞きたくありません。

フェミニズムは実は平等という意味ですが、男性よりも権力を持つ、女性の優越性を意味すると勘違いしている人が多いです。でも、本当の男女平等が叶うために、たしかにより女性を助け、支援する必要があります。それでこそ公平が実現できます。私も女性に対する「期待」にそえない事が怖かったり、周りと同じような偏見も持っていました。「女嫌い」は汚れた空気のように浸透して、気づかずに、環境を汚染しています。周りを見ながら成長して、今は自信を持って自分はフェミニストだと言えます。今後すぐ女性に対する態度を良い方向に向けられなくても、女性が活躍し続ける限り、怖がらずに生きていける社会になると信じています。「女性は蝶のように 繊細で、美しく見えるかもしれないが、嵐を越えて飛べる」。将来、皆さんも蝶のように自由に飛べると良いですね。

京都の飴ちゃん

私カナダの大学に通い始めてから一番よく聞かれた質問は「何で日本語を専攻にしたの？」でした。確かに、日本語を専攻にまでするなんてどんな意味があるのかと思われるかもしれませんが。今までは簡単に「日本のお笑いが好きだから」と答えていました。日本のコメディーターを字幕なしに見るのが目標だったので。

でも、日本語の知識が増えてもなかなか日本の漫才には笑えませんでした。たとえば、突然飴を渡してこようとする相手に「大阪のおばちゃんか！」と言い返す場面に、自分以外のみんなが爆笑するのです。後から説明を聞いたとしても、笑うタイミングを逃した後です。常に「大阪のおばさんは飴を持ち歩いているイメージがある」という文化的なことが理解できないと、その場では笑えないのです。

ただ、何かを理解するということは簡単ではありません。お笑いの例では、芸人が「この状態ではこのジョークを言う」という「知識」を暗記しても、毎回漫才やコントを披露する場所や観客が違うため、いつも同じジョークで観客が笑うとは限りません。つまり、芸人と観客がコメディーターに入っている文化を理解できていなければお笑いは成立しません。私が日本語を専攻しているのは、この理解する楽しさが理由だと言えます。

私は大学でアジア研究、その中でも日本語を専攻してからそのような「理解すること」の楽しさを実感しました。日本の文化、歴史、社会の授業から学んだ知識が重なってやっとお笑いをその意味を調べずに楽しむことができるようになってきたと思います。

そしてこの知識を超えた理解は、私自身の楽しさだけではなく日本語をより理解することにも役立ちます。たとえば、敬語は、日本語学習者にとって、超えなければいけない大きい山の一つです。しかし、敬語表現が相手への思いやりから発展した文化だというコンテクストを理解できれば、「相手への思いやり」が必要な場面に自然と敬語を使えるようになるのではないのでしょうか。言葉の理解は、知識を超えれば相手、または社会への理解にまで広がるのです。

私がこのように日本社会への理解を広げたいきっかけはたくさんありますが、一番印象的なものの一つに「京都のお茶漬け」があります。みなさんも、「京都人は遠回しが酷い」ということを聞いたことがおありでしょう。私も以前、テレビで見て、京都人が何かを褒めたり勧めたりしたらいい意味ではないのだなと、怖い性格の人たちだと思ったことがあります。しかし、その後「京都の遠回しは様々な人が集まる首都の歴史から由来して、地方から来た新しい人への配慮から京都の人は真意をすぐ表現しないようになった」という記事を読みました。

それで私は京都の遠回しが敬語と同じく思いやりの結果であることを知り、首都が東京に変わった現代日本では遠回しな言い方が薄まってきたのかもしれないと予想しました。日本語、そして日本社会の変化を理解してなかったら私は今も京都の遠回しは変だと思い込んでいるだけだったかもしれません。

このように、何かを理解するということは単純に暗記するだけで成立するものではありません。私が日本語とアジア研究を通じて日本文化・社会への理解を深めてきたように、何かを理解するというのは少しずつブロックを積み重ねるように少しずつ進めるものなのでしょう。皆さんも、理解を重ねる楽しさを探す機会として、知っていると思うことの裏にある文化・社会的な背景に目線を広げてみてはいかがでしょうか。「京都のおばさんが飴をくれたらどんな意味があるんだろう」など面白くて困る質問に出会う機会になるかもしれません。

写真と違う絵

「描(えが)いて、隠す」。十年前、それが、私の癖でした。絵を描(か)く時、描いている絵が完璧かを確認(かくにん)するため、いつも写真を見なければいけなかったものでした。写真のように描けない私は、自分に恥(はじ)を感じて、落ち込みました。結果は、間違った所が気に入らなくて、描いた絵が見たくなくなって、どこかに隠すことでした。

しかし、花のことが好きなリーという親友の誕生日のために、花束の絵を描くことにしました。ネットで見つけた写真が真似できると思いましたが、描けば描くほど、思うように花束をなかなか描けないことに気がつきました。写真の花束に比べると、描いた花束のそれぞれの花の形と色は、全部違うと思いました。リーがその絵を見ると、どう思うかと怖くなりました。

それで、「絶対これを隠す」と自分に約束し、写真ぐらい綺麗(きれい)ではないものは、価値がないからと、絵をベッドの下に隠して、その代わりに、リーに誕生日のカードを作ってあげました。

しかしある日、リーは、家に遊びに来て、隠した花束の絵を見つけてしまいました。驚いた私は、「それは、リーの誕生日のプレゼントのはずだったけど、綺麗じゃないんで、隠したんだ。」と言い訳(いいわけ)しました。リーは「それにしても、もらってもいい？」と聞いてきました。「どうしてそんな絵がほしいの？もっと綺麗な花束の絵が買いに行けるよ。」と私が言うと、リーは、「この綺麗じゃないと思った花束の絵にも、何かがあるんじゃない？色々な花束の写真を見すぎて、自分の描いた絵の魅力が感じられなかった？」と私に聞きました。それで、いやいやながら絵を渡しました。

みなさん、古田織部をご存じですか。この人は、茶の湯に革命を起こした人の一人です。鎌倉(かまくら)から安土桃山(あづちももやま)時代の日本では、中国からの丸く、滑(なめ)らかな肌触り(はだざわり)がある茶碗にとても人気がありました。しかし、織部は、その茶碗を真似する代わりに、自分の茶碗を作りました。織部の茶碗は、非対称(ひたいしょう)でわざと歪(ゆが)ませた形で、バランスが悪く見えます。それは間違いではなく、意図的にそのように作りました。面白いことは、この茶碗がお茶文化が変わるほど人々に愛されました。今、調べると、織部茶碗の値段は、普通の茶碗の五倍にもなります。つまり、その不完全な織部茶碗は、不完全だからこそ高い価値があります。それは、十年前の私には、まだ分からなかったことです。現在の社会には、いつも完璧主義(かんぺきしゅぎ)という写真のレベルに合わせなければならないプレッシャーがあると思います。SNSなどのマスメディアで、大体綺麗な物しか見せず、結果は、完璧が現実(げんじつ)で、完璧なものしか価値がないという誤解(ごかい)を招(まね)きがちで、不完全を隠さなければいけないという不安を感じさせられます。いつも花束の写真を見ていた私は、一所懸命その「完璧」を目指したり、不完全という恥ずかしいところを必死(ひっし)で隠したりしていました。

しかし、リーが言ってくれた言葉を聞いたり、古田織部のことを学んだりしてから、不完全な物は、不完全な物なりの魅力があることに気がつきました。去年、久々にリーの家遊びに行き、リーの部屋に入ったら、壁にまだその私が十年前描いた花束の絵が張ってあり、泣きたいほど感動しました。

不完全なところは、自然な人生の一部分(いちぶぶん)だと思います。しかし、これは、物(もの)の価値(かち)が低くなるというより、かえって愛される理由なのではないでしょうか。リーに愛された綺麗じゃないと思った花束の絵や、古田織部が意図的に作った不完全な茶碗から、ある物の価値は、完璧に限らないということに気づかされました。そのなかなか描けない花束に、その不完全さの中に、何か美しい所があるのではないのでしょうか。ですから、完璧を目指すために不完全を隠すより、自分の不完全さで魅力的な絵を描(えが)きませんか。

聞いてくださってありがとうございました。

心の絆

私の18歳の誕生日に UBC から合格のメールが届きました。インドを出て、新しい国で、新しい人々に出会い、新しい友人を作り、世界で一番幸せな人になれる機会がきたと思い、すごくワクワクしていました。しかし、この新しい土地での生活がどれほど大変なものになるか、当時の私にはわかっていなかったのです。

UBC での1年目は本当に大変でした。一緒に暮らしていたルームメイトとはあまり親しくなれず、ノートを借りるだけではなく、友達になりたいと思える人にも出会えませんでした。クラブにも参加してみましたが、すでにもう友達になっている人ばかりで、なかなか溶け込めませんでした。友達を作ろうとしても、実を結すばないまま半年が過ぎ、私はインドが恋しくなっていました。

そんな中、コロナが始まり、1年生の2学期に、すべての授業がオンラインに切り替わりました。一日中、家に引きこもり、オンラインの講義を聞くだけで、誰とも一ひと言ことも話さない日もあったことを今でも覚えています。恋しいインドは一いち万キロ以上離れたところにあり、「私に何かあったら、誰が助けてくれるの」と悩みました。また、周りの学生に溶け込めないのは自分が悪いからではないかと考え、他人の目を気にし始めました。この年は私の人生の中で最も暗い時期でした。何度も泣き、孤独を感じ、追い詰められ、人生が崩壊していくような気がしました。

2年生になった九月にバンクーバーでの生活を諦め、「ウチ」に帰るためやっとインドに帰りました。一年間ほぼ毎日、家族と友達と一緒に過ごし、私が恋しかったのは実はインドという場所ではなく、どんな時でも周りにいてくれる家族と友達だったのだと気づきました。どれだけ離れていても、私を支えてくれる両親や大切な友達との心の絆があることがわかったので、また寂しいバンクーバーに戻っていくのはこわくなかったし、頑張ろうと思いました。三年生になり、この絆を支えにバンクーバーに戻った私は、以前より積極的にクラブ活動やイベントに参加し、友達もできました。2年前の私にはとても想像できないほど充実しています。一人でいても、寂しくありません。

私の大学生活は非常に辛い経験もありましたが、その経験のおかげで、心の絆の大切さに気づきました。また、暗い気分になったり、精神的に追い詰められたりしても、いつかは道が開けると身をもって学びました。

困難の真っ只中にいる時は、今経験していることが未完成のパズルのようで、それぞれのピースが自分の人生のどこにつながるかわかりません。また、自分の人生に必要なピースなのかも疑問に思うかもしれません。しかし、辛い時が過ぎてから、その経験を振り返ってみると、人生のパズルを完成させるために必要なピースだったのだということがわかります。

人生のパズルは自分一人で完成させようとする必要はありません。私も心で繋がっている家族と友達のおかげで、絶望を乗り越え、今こうして皆さんに自分の経験をお話しています。ですから、みなさんにも辛い時に話し合える人やいつもサポートをしてくれるような大切な人を見つけてほしいです。いつか人生を振り返ってみた時、意味、希望、そして愛を見出せるように生きてほしいです。

ご清聴ありがとうございました。

80 歳まで学部生

大学は必要でしょうか。若い時借金までして学費を払ってフルタイムでレクチャーを受ける必要があるでしょうか。私は高校を卒業した後、独立を優先して、仕事につきました。それでも大学を出た友達と収入がほとんど変わりませんでした。勉強したかったら図書館やインターネットでできます。大学は 18 歳ではなく、暇と金を持って余している 80 歳から入るべきものだと思っていました。しかし家族には口を揃えて反対され、特に母に大学は出るべきだと強く圧力をかけられ続けました。でも私の家族は誰一人大学を出ていないのです。自分と関係がない施設を根拠もなく信用する姿勢に宗教の匂いすら感じました。それに対抗して、私は大学を出ずに生きていく、これは私と大学信仰との戦いだと思腹をくくりました。

そして負けました。私の覚悟よりも家族の圧力が強かったです。しかし、その敗北を悔しがることを忘れるほど、私は大学生活を堪能してしまっています。意気投合した仲間達に囲まれて、熱がこもった議論を交わし、学問の最前線で知識を貪り、好奇心が刺激され、毎日全身の細胞が充実感で満たされています。

そんな勉学を続けるうちに、私はバンクーバーの社会問題に関心を抱くようになりました。自分の母にもホームレスに偏見があるということに気づきましたが、大学で得た知恵をもって母の考えをかえられると思っていました。ホームレスの歴史を説明したり、政治的、経済的要素をわかりやすく解説したり手を尽くしました。しかし皮肉なことに、母が信仰している大学で学んだ知識ではその偏見をどうしようもできませんでした。

ある日、母と道を歩いていたら、ウィルさんに会いました。ウィルさんはよくティム・ホートンズの前で車いすに座り、帽子を逆さにして片手で持って通行人に小銭をすがっています。いつものように私と挨拶を交わしたら母は煙そうな表情を浮かべました。その表情には見慣れていましたが、ふと、ウィルさんがどんな人なのか話したくなりました。彼が昔はビリヤードの選手で世界レベルで活躍してたこと、ホームレスになったいまでもベジタリアン生活を諦めていないこと。すると、ウィルさんが立体的な人間として現れて、母の表情はふっと和らぎました。石ほど硬かった母の偏見にひびが入りました。

その 10 秒の紹介は、私が今まで大学で勉強したどんな資料や学説よりも生々しく、感情を動かす力がありました。では、大学はやっぱいらないんじゃないだろうか。知識を蓄えても、それに感情を覚えなければ、ただの記憶でしかありません。大学で学ぶ高次元で抽象的な学問はどこで誰にどう影響するのか、想像しかできず、しかも私達は成績や就職にビクビクしながら勉強しなければいけません。そんな大学では、母を動かしたような実感は得られていないのです。

では実感を持つことができない大学は無意味なのでしょうか？ そうでもありません。現に私は大学がきっかけで母の偏見に気づき、ちっぽけながら変化を起こすことが出来たからです。私達の大学がいま必要なのはそのきっかけの先です。大学では就職に有利な知識を追うだけではなく、社会の不条理を考える・余裕を持ちたい、それに切実な感情を覚え、共感と呼ぶ力も身につけたいです。それを可能にしてくれる大学こそ社会を変える人を作ることができるのではないのでしょうか。そういう大学でしたら、私は 80 歳まで通いたいと思っています。

「虫の知らせ」

皆様、「迷信」と言えばどんな事を考えますか？「事実(じじつ)」はどうですか。本日は自分が体験した事をお話しさせて下さい。約一年前に母の友人が癌(がん)のせいで、急に亡くなってしまいました。それは母にとって驚きではありませんでした。それは、一週間前にその友人の家の前を通った時に、何かに気づいたそうです。友人が死んだ事を、なぜかもう分っていました。なぜかと母に尋ねた時には「虫の知らせ」だったと説明されました。母によると虫の知らせは何かが起こる前に気づく事だそうです。それで、私はカナダ育ちなのでカナダの社会でそのような事は迷信だと言われていると思います。

しかし、カナダ人は本当に虫の知らせが迷信だと考えるでしょうか。私は、そのような日本とカナダの考え方の相違の元は宗教から強い影響を受けたから、生まれていると思います。現在の日本の社会は仏教や神道などのアジアの伝統に影響されていますので、輪廻転生(りんねてんせい)が出来ると信じている人が多いと思います。その事で例えばゆうれいが、この世に残る事が信じられやすいと思います。それは日本の社会に溶け込んで来て、今は宗教からの考えだと思われていません。それに対して元々欧米の国として建国されたカナダはキリスト教に影響された社会なので、死んだ後には真っすぐ天国に行くと思われている人が多いと思います。この考え方ではゆうれいがこの世の中に現れる事を信じている人が少ないと思います。キリスト教の考え方は日本の考え方に比べると、宗教と社会が分かれていて、その目では虫の知らせが迷信の分野に限られていると思います。

考えれば欧米のアイスランドにも虫の知らせのような迷信と呼ばれている考え方があるので、迷信を信じるのは日本に限られていません。アイスランドでは[フルデンフォルク]と言う生き物がアイスランドの外では幻(まぼろし)だと呼ばれています。アイスランド人に聞くとフルデンフォルクは大人に見られませんが、子供は自然の中に見つけられているそうです。必ずしも信じていない大人はフルデンフォルクが生きている事を認めて、フルデンフォルクに襲(おそ)われる恐怖(きょうふ)で、例えば工事の時に彼らに相談する習慣があります。虫の知らせのようにフルデンフォルクは宗教の伝説から生まれていますが、事実だと思われています。

日本のようにキリスト教によって建てられなかった文化では宗教が社会に溶け込んで来る事が必ずあるのだと理解して進んでいます。キリスト教の影響を受けた社会は迷信と事実に分けています。これさえ納得すればなぜカナダに虫の知らせのような考え方がないと分かるようになると思います。皆様は、自分の文化を良く見ると、自分が信じていない事がありますか。どんな素敵(すてき)な世界が見つけれられるでしょうか。これが皆様に聞きたい事です。

聞いて下さってありがとうございました。

サッカーと人生の哲学

2022年12月5日、ワールドカップの日本対クロアチアの試合では、日本は延長戦が終わる前に同点でました。しかしPK戦の3人の失敗で敗北しました。ミスした南野拓実(みなみの たくみ)選手と三笥薫(みとま かおる)選手は泣き出しました。それを目にしたとき、私もとても悲しくてなりませんでした。

皆さん、サッカーは好きですか？一番好きな選手だれですか？クリスティアーノ・ロナウド？メッシ？エムバペ？それとも“アジアベスト”といわれていたソン・フンミン選手でしょうか？

私はサッカーが好きです。多くの方はそれを聞いて、よく「女の子はサッカーが好きだと言っているけど、多分イケメンが好きでしょう」という偏見を持っています。しかし、サッカーは、人生のたくさんの哲学を教えてくださいました。

それは、サッカーは不思議なスポーツだからです。90分の試合時間でどのようなことが起きるかわかりません。「弱い」と言われているチームでも、強いチームに勝つことがあります、そして無限の可能性を生み出します。例えば、「下克上」(げこくじょう)がその例です。私たちはよく、自分のことを平凡だと考えます。そして、強者に憧れます。強さと弱さを隔(へだ)てる壁は破(やぶ)れないものだと思われています。日本は優勝経験があるドイツとスペインに勝ったので、人々に尊敬されています。

他のスポーツと同じで、サッカーも残酷なものです。トーナメント戦の場合はどの試合も生と死・笑いと涙を分けるものになります。一秒で運命が変わることもあります。勝ち続けたチームが決勝戦で負けると、すべての努力が台無しになる感じがします。皮肉なことに、人々は勝者だけ覚えています。2014年の夏、私はメッシのトロフィーを求め瞳と悲しそうな顔を目にして、残念でなりませんでした。八年後、アルゼンチンが優勝して、メッシの夢がやっと叶うことになりました。その情景を見て、私も感動して涙が出ました。一方で、フランスは2連覇に達成しなくても、ハットトリックを完璧に実行したエムバペは、私から見れば、もちろん英雄です。

サッカーは残酷であると同時に、“絆”という温かくて感動的なものでもあります。最初に話した三笥薫選手と同じく日本代表の田中碧(たなか あお)選手は幼馴染です。同じの小学校と中学校にいました。メッシとアグエロも、幼少時代から友人関係でした。大人になった後は共に国の代表のために努力をしました。ともに成長して成功を収(おさ)めることは、滅多(めった)にない友情を生み出します。三笥と田中選手の絆にせいで、スペイン戦の決勝のゴールを一緒に作りました。そして、“死の組”からトーナメントに進出しました。2018年、日本はベルギーとの試合で2点を先行しました。しかしその後、14秒の時間に逆転(ぎゃくてん)負けで敗戦しました。ロストフの悲劇(ひげき)を経験して、涙と悔しさから未熟さを痛感した選手たちは今度こそ真剣勝負に挑むと決めたが、また失敗してしまいました。しかしまだ終わりではありません。いつか目標を達成して新しい歴史を作ることができると思っています。

2026年に北アメリカで開催されるワールドカップで、日本とカナダが素晴らしい試合を見せてくれることを楽しみにしています。

ご清聴ありがとうございました。

以上